

森林の仕事ガイダンス

地球温暖化の防止にとつてなくてはならない森林―その森林に対する理解が広まる中で、林業への就労を目指す人々が増えてきています。

そのような人たちに、林業に就業するための学習や体験機会の紹介や、就業支援窓口などの情報提供、就業後に受講可能な研修制度などの説明を行う「森林の仕事ガイダンス」が本年度も東京、名古屋、大阪の三大都市で開催されました。本年度で七回目となるこの説明会には、最近、若者の参加が増えています。新規就業者の定着率も向上しており、生き生きとした森林を未来に引き継ぐための人材が着実に増えつつあります。

全国三大都市で開催

「森林の仕事ガイダンス」は「緑の雇用担い手対策事業」（林野庁）と「林業就業支援事業」（厚生労働省）に基づき、全国森林組合連合会が実施主体となつて行う林業への就業を目指す人たちを対象とした説明相談会です。

各会場二日間にあわたつて開催され、林業に関する仕事内容の紹介や、緑の雇用制度、林業就業の事前研修として基礎的知識などを習得する林業就業支援講習会やチェーン

ソーの資格取得についての案内、森林ボランティア活動に関する情報の提供などが行われました。緑の雇用

による研修生として活躍している人達に参加した「森林の担い手トークショー」では、研修生の本音も披露されました。都道府県相談ブースでは、事業者の新規雇用予定や都道府県レベルでの支援内容を説明し、生活相談にも応じる体制を準備しています。

本年度は、昨年の一二月二〇日、二一日の両日に東京・有楽町の東京国際フォーラムで開催（参加者一〇五九名）されたのを皮切りに、年

明けの一月一五日から一六日にかけては名古屋の名古屋国際センター（同六八名）、一月二二日から二三

日にかけては大阪の梅田ステラホール（同一、七一一名）、二月五日から六日にかけては再び東京に戻り秋葉原のエキバ・スクエアを会場に開催されました。本年度は各会場とも求職者の参加が増えています。深刻な雇用情勢のあらわれといえそうです。

林業就業までのプロセス

森林・林業関連の就業を目指す人



各都道府県相談ブース

にとつて、「森林の仕事ガイダンス」は情報収集を行うことができる貴重な機会となります。直接就業を斡旋する場ではありませんが、就業希望を持つ人にとつて、どこにアプローチすればよいかといった窓口や、林業の仕事の内容等に関する情報が入手できます。

ガイダンスで就業に関する情報を入手した人は、林業労働力確保支援センターやハローワークを通じて個別団体や民間の林業事業者等と具体的な就業について相談します。

林業に就業するまでの間に受講可能な研修が林業就業支援事業による

森林組合や民間の林業事業者などに就業すると、緑の雇用担い手対策事業に基づき、研修生として、林業の技術・技能を習得することができます。緑の雇用研修では、一年目に基本的な技術を習得する二〇〇日間程度の基本研修が、二年目にはより

充実した研修制度が新規林業就業者の増加に寄与

林業就業者支援講習です。この講習は都道府県の林業労働力確保支援センターが行う二〇日間程度の研修で、前半は座学や道具の操作実習が、後半は林内で実地指導が受けられます。



研修生と意見の交換ができる研修生ブース

林野庁の調査によると、林業への新規就業者数は、平成六年度から緑の雇用事業を開始する前の平成一四年まで、年間一、八〇〇人余りでしたが、緑の雇用事業を開始した平成

新規雇用も着実に増加

高度な伐出技術を習得する一〇〇日間程度の技術高度化研修があります。また、二〇年度からはさらに、研修三年目に高性能林業機械を使用して効率的に森林整備を行う技術を習得する一五〇日間程度の森林施業効率化研修が加えられており、経験年数に伴って研修内容も高度化しています。



林業の現状、緑の雇用、林業就業までの流れなどについて説明



1月開催の大阪会場の様子



1月開催の名古屋会場の様子

一五年度から二〇年度は年間三、二〇〇人程度と大きく増加しています。緑の雇用事業が、新規就業者数の増加に大きく貢献しているといえます。

新規林業就業者数は年ごとに変化しますが、傾向的には増勢が続いています。景気の低迷で就業機会が減少するとともに、森林の大切さに対する国民の理解が深まる中で、「森林を守り・育てる」ことに積極

的に参加したいとする人が増えることも大きな理由です。「森林の仕事ガイダンス」への参加者は最近は大學生が増えるなど、若者の参加が目立つ情勢となっております。

我が国の森林・林業を支える担い手の確保が急務な中、ガイダンスは参加者を就業につなぐ入口として重要な役割を果たしています。

